

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2014年6月27日から2029年6月26日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2) 世界各国の株式や債券 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。 ■米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。外国投資信託証券を通じて保有する米ドル建て以外の資産については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。
組入制限	■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年1回(原則として毎年6月26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド(限定為替ヘッジ)

【運用報告書(全体版)】

(2025年6月27日から2026年6月26日まで)

第 12 期
決算日 2026年6月26日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券などに投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（限定為替ヘッジ）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 証券組入 比 率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 分配金	期 中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
8 期 (2022年 6 月27日)	11, 209	0	△16. 2	0. 0	95. 1	3, 967
9 期 (2023年 6 月26日)	11, 223	0	0. 1	0. 0	97. 1	3, 843
10期 (2024年 6 月26日)	11, 757	0	4. 8	0. 0	96. 2	3, 570
11期 (2025年 6 月26日)	12, 231	0	4. 0	0. 0	94. 5	3, 404
12期 (2026年 6 月26日)	13, 364	0	9. 3	0. 0	96. 5	3, 178

※基準価額の騰落率は分配金込み。
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。
※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 証券組入 比 率
		騰 落 率		
(期 首)	円	%	%	%
2025年 6 月26日	12, 231	—	0. 0	94. 5
6 月末	12, 329	0. 8	0. 0	94. 7
7 月末	12, 343	0. 9	0. 0	97. 6
8 月末	12, 460	1. 9	0. 0	94. 1
9 月末	12, 692	3. 8	0. 0	97. 1
10月末	12, 888	5. 4	0. 0	98. 5
11月末	12, 806	4. 7	0. 0	98. 2
12月末	12, 994	6. 2	0. 0	93. 9
2026年 1 月末	13, 294	8. 7	0. 0	94. 0
2 月末	13, 317	8. 9	0. 0	95. 8
3 月末	12, 238	0. 1	0. 0	95. 5
4 月末	13, 038	6. 6	0. 0	95. 3
5 月末	13, 481	10. 2	0. 0	98. 2
(期 末)				
2026年 6 月26日	13, 364	9. 3	0. 0	96. 5

※騰落率は期首比です。
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2025年6月27日から2026年6月26日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期 首	12,231円
期 末	13,364円 (既払分配金0円(税引前))
騰 落 率	+9.3% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2025年6月27日から2026年6月26日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産へ分散投資を行いました。

米ドル建ての組み入れ外国投資信託証券に対しては、原則として米ドル売り・円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図りました。なお、外国投資信託証券が保有する米ドル建て以外の資産については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けています。

なお、運用指図に関する権限の一部をブラックロック・ジャパン株式会社に委託しています。

上昇要因

- A I 関連投資への期待や堅調な経済ファンダメンタルズ(基礎的条件)を背景に、世界の株式市場が上昇したこと
- 主要中央銀行による金融緩和を背景に金利が低下(債券価格が上昇)したこと

投資環境について（2025年6月27日から2026年6月26日まで）

世界の株式市場および債券市場は上昇しました。

株式市場

世界の株式市場は、上昇しました。中東情勢の緊迫化を受けて一時大きく下落する場面がみられたものの、AIおよび関連インフラ銘柄への期待が高まったことに加え、地政学リスクがくすぶる中でも経済ファンダメンタルズが底堅く推移したことから、株式市場は上昇しました。

債券市場

世界の債券市場は、上昇しました。期の序盤から中盤にかけて、日銀を除く世界各国の中央銀行による金融緩和を背景に堅調に推移しました。一方、期の終盤にかけては、インフレと景気のバランスを巡る見方が交錯したことで、各国中央銀行の金融政策の方向性に対する不確実性が高まり、軟調な展開となりました。しかし、期中盤までの推移が下支えとなり、期を通じてみると債券市場は堅調に推移しました。

ポートフォリオについて（2025年6月27日から2026年6月26日まで）

当ファンド

「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)」の組み入れを高位に保ちました。

また、同投資信託証券に対して、米ドル売り・円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図りました。

ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)

市場環境の変化に事前予防的に対応する方針の下、株式、債券、現金などの各資産クラスの配分を機動的に変更しました。

株式については配分を引き上げました。経済全体は底堅く推移している一方、内訳をみるとばらつきがあり、市場全体への幅広い投資よりも銘柄選別を重視しています。長期的な構造的トレンドを見据え、業績が安定的に

成長すると考えられる企業を選別的に保有しています。セクター別では、情報技術、エネルギー、ヘルスケアなどを中心にオーバーウェイトとしました。情報技術セクターではAIインフラおよび設備投資サイクルに直接関連する分野への投資を拡大する一方、ソフトウェア企業はAIによる事業モデル変革リスクが高まっていることから、より選別的かつ慎重な姿勢を取りました。

債券については配分を引き下げました。デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）については米国のインフレや金利動向に不透明感が残る中、金利上昇による価格下落リスクを抑えるため短期化しました。債券内では、国債（先進国・新興国）をアンダーウェイトとした一方で、社債（特にハイイールド）や証券化商品を相対的に選好しました。クレジットについてはインカム獲得手段としての魅力を評価していますが、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）の更なる縮小余地は限定的とみています。証券化商品は、引き続きインカム獲得手段と分散投資の両面において魅力的であると評価しています。

商品関連については配分を少し引き下げました。金は中長期的にはポートフォリオに組み入れることで分散効果を高めることができると考えているものの、足元では実質金利の上昇や米ドル高が逆風となっており、短期的なヘッジ手段としての有効性は限定的である

とみていることから引き下げました。

●株式

6月末の61%程度から、企業業績の底堅さやAI関連を中心とした成長期待を踏まえ比率を引き上げ、2026年5月末時点では68%程度としました。

●債券

6月末の30%程度から、インフレや金利動向の不透明感を踏まえ、金利上昇リスクを抑えるため比率を引き下げ、2026年5月末時点では23%程度としました。

●商品関連

6月末の3%程度から、短期的なヘッジ効果が限定的と判断し、比率を引き下げ、2026年5月末時点では2%程度としました。

●現金等

市場環境の変化に柔軟に対応できるよう、機動性を確保するため、6月末の7%程度と同程度を維持しました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2025年6月27日から2026年6月26日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2025年6月27日から2026年6月26日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項 目	第12期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,761

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)」の組み入れを高位に保ちます。

また、同投資信託証券に対して、米ドル売り・円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。

ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド(クラスX2)

2026年、米国経済はAIによる生産性の向上等により拡大基調が続くと考え、引き続き建設的な見方を維持しています。株式、債券ともにバリュエーション(投資価値評価)は割安ではないものの、堅調な経済成長や生産性の改善といったマクロ環境を踏まえれば、リスクテイクに適した環境であると考えます。

また、3月以降は中東情勢の悪化を警戒して、株式、債券市場ともにボラティリティ(変動性)が上昇する局面がみられたものの、

足元は概ね情勢悪化前の水準まで回帰しています。引き続き、力強いA I 関連投資、底堅い米国経済、および概ね安定した金融政策が主要なテーマとみています。一方で、インフレ圧力、金利の高止まり、米国の雇用成長のばらつき等については、引き続き留意すべきリスク要因と位置付けています。

こうした環境下、当ファンドでは株式についてオーバーウェイトとしており、米国株や景気敏感セクターおよびA I 関連の恩恵を受ける分野を特に選好しています。

債券についてはインカムを重視しており、デュレーションを小幅にアンダーウェイトとする一方で、より魅力的な利回り機会を提供するクレジットやスプレッド資産をオーバーウェイトとしています。ポートフォリオ全体としては、リスク資産への一定のエクスポージャーを維持しながら、質の高い資産、およ

び特に強気な見通しを持つサブセクターや銘柄への投資を重視する方針です。

当ファンドは、社債、証券化資産、および新興国のソブリン債（政府や政府機関、国際機関などが発行する債券）への配分を維持しており、これらが債券配分の大部分を占めています。また、リスク許容度を踏まえ、デュレーションを含む様々な手段でポートフォリオ・ヘッジを行っており、デリバティブ（金融派生商品）や金関連証券を保有するとともに、一定のキャッシュ比率と為替ポジションを維持しています。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

- 「一般社団法人投資信託協会」を「一般社団法人資産運用業協会」へ名称を変更することとなったため、信託約款に所要の変更を行いました。（適用日：2026年4月1日）

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（限定為替ヘッジ）

1万口当たりの費用明細（2025年6月27日から2026年6月26日まで）

項 目	金額	比率	項目の概要
(a) 信 託 報 酬	266円	2.068%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数） 期中の平均基準価額は12,860円です。
（ 投 信 会 社 ）	(149)	(1.155)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(113)	(0.880)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(4)	(0.033)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(－)	(－)	
(先物・オプション)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(－)	(－)	
（ 公 社 債 ）	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(d) そ の 他 費 用	2	0.012	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(1)	(0.007)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（ そ の 他 ）	(－)	(－)	そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	267	2.080	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

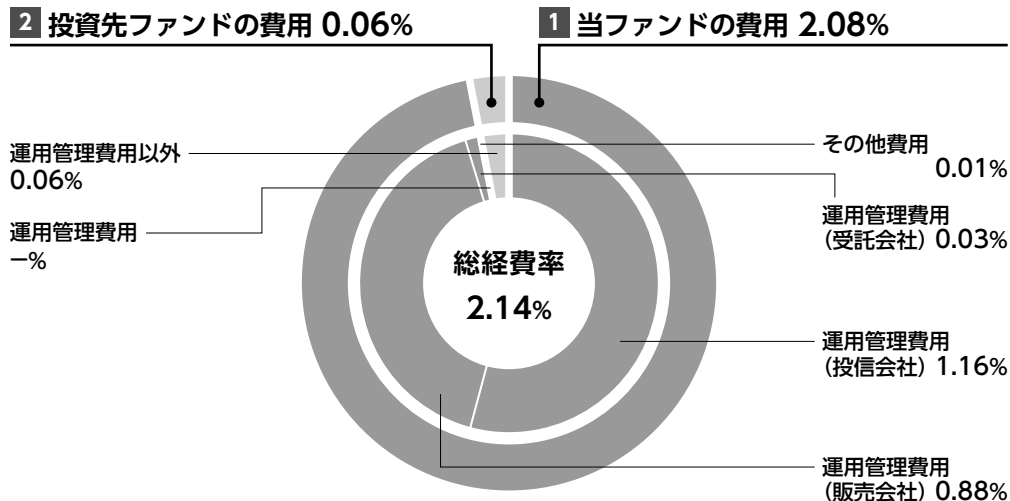
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)		2.14%
1	当ファンドの費用の比率	2.08%
	投資先ファンドの運用管理費用の比率	ー%
2	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

※ **1**の各費用は、前掲「1 万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1 万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ **2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

※ **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1 口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.14%です。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（限定為替ヘッジ）

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2025年6月27日から2026年6月26日まで)

投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
外国	ア メ リ カ	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2)	口 15,944	千アメリカ・ドル 2,037	口 67,436	千アメリカ・ドル 8,443

※金額は受渡し代金。

■ 利害関係人との取引状況等 (2025年6月27日から2026年6月26日まで)

利害関係人との取引状況

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（限定為替ヘッジ）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

マネー・マーケット・マザーファンド

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況 D	$\frac{D}{C}$
公 社 債	百万円 4,568	百万円 1,129	% 24.7	百万円 —	百万円 —	% —

※平均保有割合 0.1%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2025年6月27日から2026年6月26日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■組入れ資産の明細(2026年 6 月26日現在)

(1)ファンド・オブ・ファンズが組入れた外貨建ファンドの明細

フ ン ド 名	期首(前期末)	期 末			
	口 数	口 数	評 価 額		組入比率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(ルクセンブルグ) ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・ アロケーション・ファンド（クラスX2）	口 192, 045. 95	口 140, 553. 85	千アメリカ・ドル 18, 943	千円 3, 067, 008	% 96. 5
合 計	192, 045. 95	140, 553. 85	－	3, 067, 008	96. 5

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2)親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 1, 237	千口 1, 237	千円 1, 243

※マネー・マーケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は1, 207, 872, 716口です。

■投資信託財産の構成

(2026年 6 月26日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 証 券	千円 3, 067, 008	% 92. 9
マネー・マーケット・マザーファンド	1, 243	0. 0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	232, 248	7. 0
投 資 信 託 財 産 総 額	3, 300, 501	100. 0

※期末における外貨建資産(3, 069, 999千円)の投資信託財産総額(3, 300, 501千円)に対する比率は93. 0%です。
※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1
アメリカ・ドル＝161. 90円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2026年 6月26日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	6, 673, 422, 067円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	230, 487, 622
投 資 証 券 (評 価 額)	3, 067, 008, 975
マ ネ ー ・ マ ー ケ ッ ト ・	
マ ザ ー フ ァ ン ド (評 価 額)	1, 243, 953
未 収 入 金	3, 374, 681, 517
(B) 負 債	3, 495, 020, 282
未 払 金	3, 460, 945, 873
未 払 解 約 金	193, 365
未 払 信 託 報 酬	33, 800, 231
そ の 他 未 払 費 用	80, 813
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	3, 178, 401, 785
元 本	2, 378, 355, 868
次 期 繰 越 損 益 金	800, 045, 917
(D) 受 益 権 総 口 数	2, 378, 355, 868口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	13, 364円

※当期における期首元本額2,783,055,739円、期中追加設定元本額39,884,625円、期中一部解約元本額444,584,496円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2025年 6月27日 至2026年 6月26日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1, 380, 637円
受 取 利 息	1, 380, 637
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	335, 845, 312
売 買 益	909, 497, 146
売 買 損	△573, 651, 834
(C) 信 託 報 酬 等	△ 69, 150, 209
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	268, 075, 740
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	350, 251, 635
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	181, 718, 542
(配 当 等 相 当 額)	(276, 306, 113)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 94, 587, 571)
(G) 合 計 (D + E + F)	800, 045, 917
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	800, 045, 917
追 加 信 託 差 損 益 金	181, 718, 542
(配 当 等 相 当 額)	(276, 306, 114)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 94, 587, 572)
分 配 準 備 積 立 金	618, 327, 375

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は26,345,959円です。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	1, 103, 281円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	93, 964, 714
(c) 収益調整金	276, 306, 114
(d) 分配準備積立金	523, 259, 380
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	894, 633, 489
1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	3, 761. 56
(f) 分配金	0
1 万 口 当 た り 分 配 金	0

■ 分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税引前)	当 期
	0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）
形態	ルクセンブルグ籍会社型投資信託（米ドル建て）
主要投資対象	世界各国の株式や債券など
運用の基本方針	●トータル・リターンを最大化することを目指します。 ●ファンドは、世界の株式、債券および短期証券に投資します。通常の市況では、純資産の70%以上を国や企業が発行する有価証券に投資します。 ●ファンドは、割安と判断される有価証券へ投資します。ファンドは、小規模企業および新興国の成長企業の株式に、また債券の投資部分においてはハイ・イールド債券にも投資することができます。 ●通貨エクスポージャーについては柔軟に運用します。
主な投資制限	●有価証券の空売りは行いません。 ●純資産総額の10%を超える借入れは行いません。 ●同一発行体の有価証券等への投資割合は、純資産総額の10%以内とします。 ●非流動性資産への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。
分配方針	分配を行いません。
運用管理費用	運用報酬はありません。 ※管理および保管に要する費用などがかかりますが、これらはファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率等を示すことができません。
その他の費用	ルクセンブルグの年次税（年0.01%）、ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
スイング・プライス	ファンドの買付け、売却がポートフォリオに重要な影響を与えると考えられる場合、予想される取引スプレッド、コスト、その他の要因を考慮して、その売買価格が調整されることがあります。
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の情報を委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

■ 損益及び純資産変動計算書 (2025年 8 月31日に終了した期間)

(単位：米ドル)

期首純資産	15,250,819,657
収益	
現金及び現金同等物に係る受取利息	47,019,948
債券利息（源泉税控除後）	249,304,119
スワップ利息	106,325,637
短期金融市場預託金利息	62,098
配当金（源泉税控除後）	122,779,171
有価証券貸付収益	3,468,352
管理報酬リベート	49,902
その他払い戻し	4,469
収益合計	529,013,696
費用	
スワップ利息	118,269,338
年間サービス料	28,673,815
貸付委託費用	129,561
保管および預託報酬	1,890,351
販売報酬	15,027,404
税金	6,899,117
管理報酬	191,987,395
費用合計	362,876,981
純損益	166,136,715
以下に係る実現純損益：	
投資有価証券	1,180,548,203
TBA証券取引契約	(2,642,110)
上場先物取引	25,020,937
オプション／スワップション契約	(24,599,639)
スワップ取引	(41,101,630)
為替先渡取引	60,339,686
その他の取引に係る外国通貨	9,275,720
当期実現純損益	1,206,841,167

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（限定為替ヘッジ）

以下に係る未実現損益の純変動額：

投資有価証券	424, 122, 841
TBA証券取引契約	718, 625
上場先物取引	(16, 640, 611)
オプション／スワップション契約	1, 932, 042
スワップ取引	(5, 238, 977)
為替先渡取引	(108, 251, 503)
その他の取引に係る外国通貨	657, 979
当期未実現損益の純変動額	297, 300, 396
運用による純資産の増減額	1, 670, 278, 278
資本の変動	
投資証券発行による正味受取額	3, 054, 928, 406
投資証券買戻しによる正味支払額	(3, 362, 877, 027)
資本の変動による純資産の増減額	(307, 948, 621)
配当金宣言額	(44, 034, 946)
期末純資産	16, 569, 114, 368

■組入上位銘柄(基準日：2025年8月29日)

銘柄名	組入比率
NVIDIA CORP	2.9%
MICROSOFT CORP	2.8%
AMAZON COM INC	2.2%
APPLE INC	2.0%
GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 2.3 02/15/2033	1.9%
ALPHABET INC CLASS C	1.8%
META PLATFORMS INC CLASS A	1.7%
UK CONV GILT 1.25 07/22/2027	1.3%
BROADCOM INC	1.2%
TREASURY NOTE 4.125 07/31/2028	1.2%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

マネー・マーケット・マザーファンド

第15期（2025年3月4日から2026年3月2日まで）

信託期間	無期限（設定日：2011年5月31日）
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	純 資 産 総 額
		期 中 騰 落 率		
	円	%	%	百万円
11期(2022年3月1日)	9,994	△0.1	76.0	76
12期(2023年3月1日)	9,991	△0.0	74.7	76
13期(2024年3月1日)	9,986	△0.1	74.7	76
14期(2025年3月3日)	9,987	0.0	98.2	1,206
15期(2026年3月2日)	10,028	0.4	97.2	1,211

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

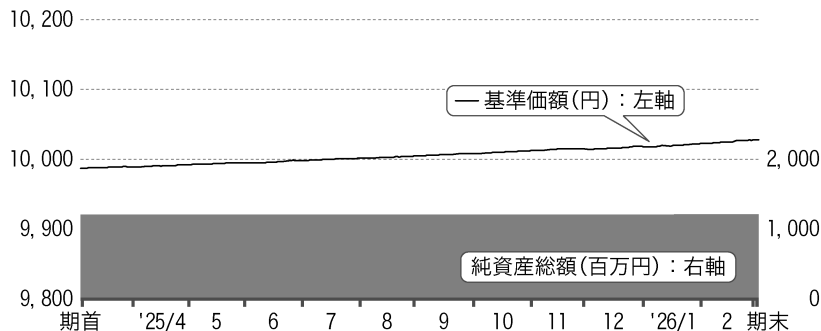
年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
		騰 落 率	
(期 首)	円	%	%
2025年3月3日	9,987	—	98.2
3月末	9,989	0.0	98.2
4月末	9,992	0.1	98.0
5月末	9,995	0.1	97.9
6月末	9,998	0.1	97.7
7月末	10,002	0.2	97.7
8月末	10,005	0.2	97.6
9月末	10,008	0.2	97.5
10月末	10,013	0.3	97.5
11月末	10,015	0.3	97.4
12月末	10,018	0.3	97.3
2026年1月末	10,023	0.4	97.3
2月末	10,028	0.4	97.2
(期 末)			
2026年3月2日	10,028	0.4	97.2

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

基準価額等の推移



期首	9,987円
期末	10,028円
騰落率	+0.4%

▶ 基準価額の主な変動要因 (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

上昇要因

- ・日銀が2025年12月に追加利上げを行ったことを受け、短期公社債や短期金融商品の利回りが上昇したこと

▶ 投資環境について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

短期金利は上昇しました。

食品価格の高止まりを背景にCPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上の推移が継続しました。期末にかけては、ガソリン暫定税率の廃止や生鮮食品を除く食料品価格の伸び率縮小を背景に前年比+2%まで低下しました。日銀は国内経済・物価が見通しに沿って推移していると判断し、12月に開催された金融政策決定会合で、日銀当座預金付利金利を0.75%に引き上げることで無担保コール（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利を0.75%程度で推移するよう促すことを決定しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、トランプ政権による関税政策の影響や、国内の政治動向をにらみ一進一退の動きとなりましたが、日銀が利上げ姿勢を維持しているとの見方に変化はなく、期初から11月にかけては緩やかな上昇基調で推移しました。その後は、利上げの地均しともとれる観測報道が相次ぎ、実際に12月に行われた金融政策決定会合では利上げが決定されたことから、利回りは上昇基調で推移しました。期末にかけても、日銀が利上げ姿勢を維持しているとの見方に変化はなく、利回りは緩やかな上昇基調となりました。

▶ ポートフォリオについて (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

2025年12月に日銀が政策金利の誘導目標を0.75%へ引き上げ、その後も追加利上げの姿勢を維持していることから、短期ゾーンの利回りは上昇基調での推移を予想します。

引き続き残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当期中における記載すべき項目はありません。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	4,569,140	— (4,581,400)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2026年3月2日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区分	期				末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円	千円	%	%	%	%	%
	1,179,000	1,177,024	97.2	—	—	—	97.2
	(1,143,000)	(1,141,161)	(94.2)	(—)	(—)	(—)	(94.2)
合計	1,179,000	1,177,024	97.2	—	—	—	97.2
	(1,143,000)	(1,141,161)	(94.2)	(—)	(—)	(—)	(94.2)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示
国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
国 債 証 券	342 10年国債	%	千円	千円	
	1362国庫短期証券	0.1000	12,000	11,996	2026/03/20
	148 5年国債	—	1,132,000	1,130,187	2026/05/18
	344 10年国債	0.0050	11,000	10,973	2026/06/20
	345 10年国債	0.1000	12,000	11,948	2026/09/20
		0.1000	12,000	11,917	2026/12/20
小 計		—	1,179,000	1,177,024	—
合 計		—	1,179,000	1,177,024	—

■■ 投資信託財産の構成 (2026年 3 月 2 日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 1,177,024	% 97.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	34,192	2.8
投 資 信 託 財 産 総 額	1,211,216	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2026年 3 月 2 日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	1,211,216,377円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	34,179,486
公 社 債 (評 価 額)	1,177,024,078
未 収 利 息	12,584
前 払 費 用	229
(B) 純 資 産 総 額 (A)	1,211,216,377
元 本	1,207,872,716
次 期 繰 越 損 益 金	3,343,661
(C) 受 益 権 総 口 数	1,207,872,716口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (B/C)	10,028円

※当期における期首元本額1,207,872,716円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17,711,132円
アジア好利回りリート・ファンド	99,971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	7,742,960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	1,337,053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/3カ月決算型)	4,909,194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/3カ月決算型)	1,456,790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)	14,208,735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (限定為替ヘッジ)	1,237,272円
アジア好利回りリート・ファンド (年1回決算型)	997円
グローバル自動運転関連連株式ファンド (為替ヘッジあり)	4,140,881円
グローバル自動運転関連連株式ファンド (為替ヘッジなし)	11,065,647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2,185,185円
高成長インド・中型株式ファンド (年1回決算型)	7,882,655円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	20,035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	20,035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジあり/年4回決算型)	20,035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジなし/年4回決算型)	20,035円
トータルヘッジ用ファンドMUT1号<適格機関投資家限定>	1,133,814,104円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

<約款変更について>

- ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。(適用日：2025年4月1日)

■ 損益の状況

(自2025年 3 月 4 日 至2026年 3 月 2 日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	4,938,181円
受 取 利 息	4,938,181
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 43,213
売 買 益	159,214
売 買 損	△ 202,427
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	4,894,968
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△1,551,307
(E) 合 計 (C + D)	3,343,661
次 期 繰 越 損 益 金 (E)	3,343,661

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。